

小学校外国語学習者用デジタル教科書を活用した効果的な指導の在り方

1. 研究のテーマについて

令和2年小学校英語教科化、令和3年学習者用タブレットの配布、そして、令和4年度、小学校外国語、学習者用デジタル教科書が導入された。学習者は、タブレットに導入されたデジタル教科書を活用することで、聞きたいときに、いつでも・どこでも・何度でも英語の音声を聞くことが可能になった。また、コロナパンデミックを経験したことで、より一層、関わり合いを大切にした協働的な学びの重要性が認識されている。従って、今年度の研究内容は、「デジタル教科書を活用した外国語の指導における個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」である。効果的であった指導実践を共有し、教材研究を行うことで都内教員のデジタル教科書を活用した外国語指導力向上を図り、「将来英語を話せるようになりたい」とする児童の願いに応える外国語の指導を確立することを目指した。

学習者用デジタル教科書

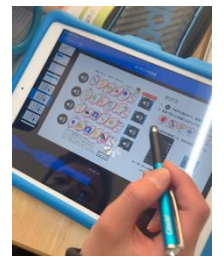
学習者用デジタル教科書には、以下のような機能があります。



資料1 学習者用デジタル教科書 小学校外国語 東京書籍

2. Kids Global Empowerment の活動について

本団体は令和元年から、教員を対象とした外国語指導力向上研究会を月に1回開催している。都内全域から、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、そしてALTが垣根を越えて交流する場となっている。活動を開始して5年目になり、現在までに約300名が参加した。これまで、アメリカ大使館・国際教養大学から2年間の助成を受け、研究会を運営してきた。コロナ禍においては、素早くオンライン対応を図り研究会を継続した。とりわけ、一斉休校時において多くの研修会等が中止となる中、タイムリーかつ実践的な情報交換の場として効果的に機能した。異なる地域や異なる校種の英語教員を繋ぎ、多様な視点からの情報交換を行うことで、都内の英語教育の充実に寄与している。



本研究会のこれまでの研究成果は大きく分けて次の3つに大

別される。

(1) 外国語の指導力向上に関する研究

「新学習指導要領における評価」

「一学期授業実践検討と二学期授業教材研究」



P P Pの学習展開に基づく計画的な小学校外国語の授業

(2) ICTの効果的な活用に関する研究

個別最適学習タブレット教材の作成と指導実践

小学校外国語科におけるKeynoteを活用した「発表」の指導実践

ICTを活用した小学校外国語の指導における反転学習指導実践

Googleクラスルームを活用した小学校外国語の協働学習指導実践



(3) コロナ禍における授業実践・教材開発

「with コロナ・教師は何ができるか。オンライン授業 はじめの一步」

「with コロナの学校における授業実践報告」

全校一斉休業時における外国語の学習動画配信

全国一斉休業時におけるデジタルワークシートによる外国語家庭学習の実践

コロナ禍の外国語の授業 Z O O Mを活用した交流活動「Hello Link」

コロナ禍におけるアメリカ手話を活用した英語の歌の指導実践

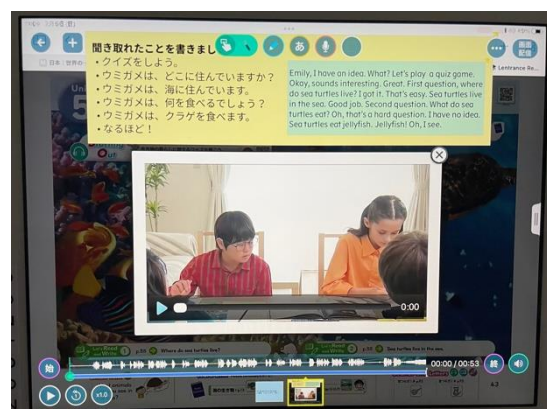
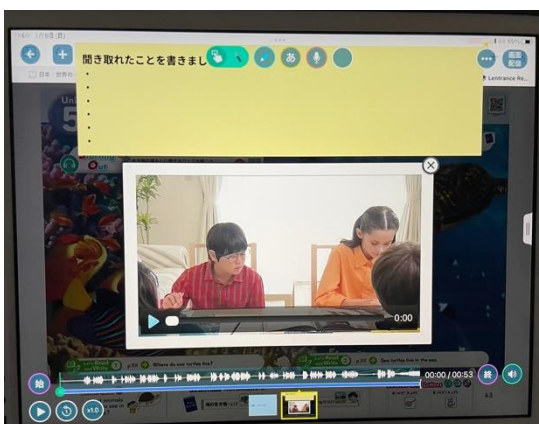


3. 毎月オンライン研究会で指導実践共有

今年度も、毎月1回、1時間～1時間半のオンライン研究会を開催した。研究会では、都内の小学校で外国語の指導にあたる教師が指導実践を報告することで効果的な外国語の指導に関する情報共有を図った。毎月、各発表者は、各校での指導実践を紹介した。発表者は、各校の実態に応じて開発したデジタル教材についての紹介や、今年度実施したICTやデジタル教科書を活用した研究授業の実践報告を行なった。また、発表後には、参加者による質疑応答、情報交換を行なった。以下にデジタル教科書とロイロノートを融合した指導実践を紹介する。

(1) リスニングおける活用

ロイロノート上でデジタル教科書の動画を配信、視聴できるようにした。音声スピードを変えたり、一度止めたり、繰り返し聞いたりするなど、個々の実態に応じて児童がリスニングの動画を操作した。児童は、分かったことを同一画面上に記入した。また、スクリプトを提示して、音声を聞くことができるようにした。



(2) デジタル教材、デジタル教科書、紙のワークシートを融合した指導の流れ

ロイロノート上で、ワークシートやデジタル教材、デジタル教科書のコンテンツを配信した。

児童と向き合いながら 学習者用デジタル教科書の活用ポイントを見つけ出す 東京都目黒区立東根小学校

【協賛企業】 東京書籍株式会社
教育新聞ブランドスタジオ
2023年3月2日



1人1台端末環境が教育現場において全国的に整備された今、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進する上で、中心的な役割を担うのが学習者用デジタル教科書である。文科省も2024年度から小学校5年生から中学校3年生の英語で先行導入する方針を示している。学校現場において効果的な活用方法が模索される中、22年度から英語で学習者用デジタル教科書の活用をしている東京都目黒区立東根小学校（高鍋藤子校長、児童数723人）を取材した。

学習者用デジタル教科書で主体的で対話的な学びを誘う



児童に課題を共有



デジタル教科書を活用し会話で伝えたい内容を確認

資料4 「児童と向き合いながら 学習者用デジタル教科書の活用ポイントを見つけ出す」教育新聞 2023年3月2日

https://www.kyobun.co.jp/feature/pf20230302_02/

4. 今年度の成果と課題

各市区町村によって、学習者用端末の種類やICT環境が異なる実態があるが、指導実践やデジタル教材等を本研究会で共有したり、質疑応答したりすることで情報交換を図ることができた。実践を通じた具体的な助言や手立てを共有することができ、デジタル教科書やICTを活用した外国語指導力向上を図る一助となった。また、それぞれの学校のICT環境や児童の実態に応じた外国語指導における教材開発を促進した。課題は、児童の“autonomy”、「自律性」を育むことである。自ら学習方法を選択し、自身の学習に責任をもって主体的に学習することができなければ、学習者用端末やデジタル教科書を効果的に活かすことはできない。児童への励ましや頑張りを認め、自ら学ぶ楽しさを感じられる指導を行うことが“autonomy”、「自律性」を育むと考える。今後も教員間の連携を図り、積極的に教材研究や教材開発を行うことで、新たな時代に応じた指導力の向上を図っていく。



資料5 ICT活用実践事例 授業動画掲載 東京書籍 2023年4月18日

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/ict/support>